

東野の土地を開く

すずき さくべえい
鈴木 作兵衛 (1843~1912年)

天保7年(1836年)のれいかいで、村は大ききんとなつてしまひ、か死する人がたくさん出ました。東野もあれ野となつてしまひました。

「これではだめだ。」と思つた作兵衛は、馬場の家を養子にゆずり、東野の蕨の草へ家をたて、うつつていきました。

そして、作兵衛夫婦は小見川はんの殿様のゆるしをうけ、村の人びとど力をあわせ、田を24ヘクタールほど開こんしました。そのあと、新しく27戸が村のあちこちからやってきて住むようになりました。

文久元年(1861年)に作兵衛は、東野の戸長(今の村長)になり、村の人びとの世話をしました。

作兵衛は、田を開こんして、村の人びとのためにつくしたごほうびとして、殿様から木のさかずきをもらいました。

作兵衛は、後に、赤坂中野、石井草、富田村の戸長もつとめ、村の人びとのためにつくしましたが、病氣にかかつて、69オでなくなりました。



すずき げんのすけ
鈴木 源之助 (1841~1912年)

源之助は、赤坂東野で生まれました。実家を妹にゆずり、明治9年(1876年)湯の田に大きな家をたて、「下の湯」を開き、村の人びとからよろこばれました。

源之助は、22年間も村びとの世話をいっしょうけんめいやりました。

明治12年(1879年)には、西野小学校から中野小学校(いまの鮫川小学校)を分けて建てることのためにつくしました。

源之助は、だれよりも開こんに力を入れました。明治12年から5年間かけて東野、石井草、富田のあれ地の開こんを村の人びとによびかけて、みんなで数百ヘクター